



令和2年 7月 30日  
佛教大学附属幼稚園

「仏教保育9月のねらい」

報恩感謝

「あたり前に感謝しよう」

園長 佐藤和順

コロナ禍で、予定通りに進まなかった4月からの1学期でした。保育、行事、育友会活動等すべてのあり方を再度、検討しながら、ゆっくりとゆっくりと歩んだ感があります。

夏休みが終わり、2学期が始まる9月です。新たなるスタートをきりたいところですが、いろいろなことに注意をしながら、子どもにとって大切なことは何かを考えながら、焦ることなく保育を行いたいと思っています。

今月の保育の目標は「報恩感謝（ほうおんかんしゃ）社会や自然の恵に感謝しよう」です。社会の仕組みは、自分ひとりでは何もできません。同時に衣食住のすべてに自然の恵みがなかったら一日も生活することができません。謙虚に社会や自然に感謝する心を育てましょうということです。

例年、夏休みが終わり2学期が始まると、子どもたちがいろいろと夏の思い出を教えてください。「花火を見に行っただよ。」「海で泳いだよ。」など家族と出かけたことを楽しそうに話してくれる子どもが多いように思います。今年はコロナ禍でそのような話が聞けるのかも、心配です。ある時、「お墓参りしたんだよ。お花をあげたんだよ。」と話してくれた子どもがいました。家族の方と一緒にご先祖様のお墓の前で小さな手を合わせている姿が目に見え、ほほえましくなりました。

日本には「お盆」という風習があります。宗派や地域、またそれぞれの家庭によって行いに違いはあることでしょう。しかしご先祖さまを敬い、感謝することは誰しも心に留めていることと思います。今、自分がこの世に存在するのはあたり前ではなく、両親そしてご先祖さまが命をつないでくださったからであり、その命は子どもへと受け継がれています。

私たちは他人に何か親切にしてもらったり、特別であったり、目に見えることに対しては「ありがとう」と素直に思えます。一方で、目に見えないもの、あたり前のことに対してはなかなか感謝の気持ちが出てこないものです。今、自分が生きていること、生かされていることは当然のことではなく、ご先祖さまに見守られ、命をいただき、さまざまな人や自然、物事に支えられて生活しているのだということを忘れてはいけません。「ありがとう」の語源は「有る」ことが「難しい」、「有り難い」ことです。お盆を含め、各種仏教行事はそのことを思い出す良い契機となります。

2学期は、子どもたちが仏さま、勢至丸さまを身近に感じる機会を増やし、あたり前のことにも感謝の気持ちを持てるようになればと願っています。

